

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026年 2月 6日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号

機構 06 - 168

電話番号 03- 6379- 5156

代表者氏名 永峯 治之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

| | | | | |
|--|---|------------------------------|-------|----------|
| 評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号 | 評価者氏名 | | 担当分野 | 修了者番号 |
| | ① | 永峯 治之 | 経営 | H1901102 |
| | ② | 笠井 昌子 | 福祉 | H2201084 |
| | ③ | 三谷 宏文 | 福祉、経営 | H2301066 |
| | ④ | | | |
| | ⑤ | | | |
| | ⑥ | | | |
| 福祉サービス種別 | 認可保育所 | | | |
| 評価対象事業所名称 | 神応保育園 | | | |
| 事業所連絡先 | 〒 | 108-0072 | | |
| | 所在地 | 東京都港区白金6丁目9番5号 神応ほっとプラザ1階、2階 | | |
| | TEL | 03-5422-6363 | | |
| 事業所代表者氏名 | 川並 克美 | | | |
| 契約日 | 2025年 6月 18日 | | | |
| 利用者調査票配付日(実施日) | 2025年 8月 4日 | | | |
| 利用者調査結果報告日 | 2025年 10月 2日 | | | |
| 自己評価の調査票配付日 | 2025年 8月 8日 | | | |
| 自己評価結果報告日 | 2025年 9月 20日 | | | |
| 訪問調査日 | 2025年 10月 8日 | | | |
| 評価合議日 | 2025年 11月 2日 | | | |
| コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入) | 事業所にて事前説明を行い、全体の流れや留意事項を確認した。また、オンライン形式での利用者調査や職員アンケートの実施方法について説明を行った。訪問調査前には当日の訪問者、タイムスケジュール、確認予定の書類について案内した。訪問調査では施設見学もあわせて行い、実態の把握に努めた。合議では、訪問者2名と他の1名、事務局により内容の精査・修正を行った。 | | | |

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026年 2月 6日

事業者代表者氏名 園長 川並 克美

印

| | |
|---|---|
| 1 | <p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> |
| | <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども一人ひとりの心に寄り添い、よろこびと生きる力を育む 2. 楽しくも大変な子育ての負担を理解し「ホッ」とできる空間とサービスを提供する 3. チーム・アソシエとして一人ひとりが力を発揮し、いきいきと働き続けられる環境をみんなで作る 4. 感謝の気持ちを持って地域の方たちとのつながりを大切に、共に育ち合う |
| 2 | <p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> |
| | <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームアソシエの一員としての帰属意識を持ち、会社の理念やクレドを理解して実践する。 ・社会人として自分の仕事に責任を持つ。 ・自分の持っている力を最大限に発揮し、職員同士コミュニケーションをとりながら業務にあたる。 ・自ら研修に参加するなどして、常に向上心を持ち質の向上に取り組む。 ・子どもの発達や気持ちを理解し、人権を尊重しながら丁寧に関わる。 <p>リーダーは率先し、保育環境や職場環境の点検改善に取り組み、使命感や責任感を持つことで、相手への気づきや相互関係を大切にすること。また、保育士をはじめ、看護師、栄養士、調理師など、職員がそれぞれ有する専門性を発揮しながらチームとして保育をおこなう。</p> |
| | <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>子どもの人権を尊重した保育を、日々保育の場で意識しなくても、言葉や態度、雰囲気などで自然に伝えられる倫理を身に付け保育にあたる。</p> <p>子どもは出会い、関わり合い、触れ合うことで生きる力が見につくこと、多様な保育の提供の中で、様々な力が育まれることを認識し、使命感を持って保育する。</p> <p>また、研修等で人間性を磨き、職務への責任や自覚を高め、保護者と共に、子どもの成長を喜び、子ども自身の育ちを愛情深く支援する。</p> |

調査対象

複数児利用世帯は最低年齢1人を対象として実施世帯数を絞り、調査対象者に対し実施。

調査方法

ウェブ回答システムを活用。機関が作成した二次元コード記載の案内を事業所を通して各家庭に配布。各家庭においてそれを読み込んだ上で、個別に匿名で回答。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

109

90

90

74

82.2

利用者調査全体のコメント

<総合的な満足度>

「満足」80%、「まあまあ満足」19%、計99%という満足度が示された。

<調査結果の講評について>

・肯定的な評価(「はい」との回答)が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

| 共通評価項目 コメント | 実数 | | | |
|---------------------------------------|----|---------------|-----|------------|
| | はい | どちらとも いえない | いいえ | 無回答 非該当 |
| 1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか | 74 | 0 | 0 | 0 |
| 回答者の100%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか | 69 | 5 | 0 | 0 |
| 回答者の93%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか | 69 | 5 | 0 | 0 |
| 回答者の93%が「はい」と回答した。 | | | | |

| | | | | |
|--------------------------------|----|----|---|---|
| 4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか | 61 | 12 | 1 | 0 |
| 回答者の83%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか | 64 | 1 | 0 | 9 |
| 回答者の87%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 6. 安全対策が十分取られていると思うか | 58 | 13 | 2 | 1 |
| 回答者の78%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か | 68 | 5 | 0 | 1 |
| 回答者の92%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか | 63 | 10 | 0 | 1 |
| 回答者の85%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか | 70 | 2 | 1 | 1 |
| 回答者の95%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 10. 職員の接遇・態度は適切か | 61 | 8 | 4 | 1 |
| 回答者の83%が「はい」と回答した。 | | | | |

| | | | | |
|--|----|----|---|----|
| 11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか | 64 | 6 | 1 | 3 |
| 回答者の87%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか | 41 | 12 | 0 | 21 |
| 回答者の55%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか | 66 | 5 | 1 | 2 |
| 回答者の89%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか | 61 | 5 | 0 | 8 |
| 回答者の83%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか | 65 | 6 | 2 | 1 |
| 回答者の88%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 16. 利用者の不満や要望は対応されているか | 57 | 5 | 2 | 10 |
| 回答者の77%が「はい」と回答した。 | | | | |
| 17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか | 44 | 16 | 6 | 8 |
| 回答者の60%が「はい」と回答した。 | | | | |

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

| | | |
|-----|--|---|
| No. | 共通評価項目 | |
| | カテゴリ1 | |
| 1 | リーダーシップと意思決定 | |
| | サブカテゴリ1(1-1) | |
| | 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7 |
| | 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している | 評点(〇〇) |
| | 評価 | 標準項目 |
| | ●あり ○なし | 1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている |
| | ●あり ○なし | 2 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている |
| | ●あり ○なし | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | ○非該当 |
| | 評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている | 評点(〇〇) |
| | 評価 | 標準項目 |
| | ●あり ○なし | 1 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている |
| | ●あり ○なし | 2 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している |
| | ●あり ○なし | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | ○非該当 |
| | 評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している | 評点(〇〇〇) |
| | 評価 | 標準項目 |
| | ●あり ○なし | 1 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている |
| | ●あり ○なし | 2 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している |
| | ●あり ○なし | 3 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている |
| | ●あり ○なし | ○非該当 |
| | ●あり ○なし | ○非該当 |
| | カテゴリ1の講評 | |
| | <p>運営法人で統一された理念や方針について、職員や保護者に繰り返し伝えている</p> <p>運営法人全体で統一した理念や運営方針、運営理念を明確に定め、パンフレット、ホームページ、事業計画等に記載し、園内にも掲示している。職員には入社時のオリエンテーションで伝えているほか、クレド(信条・心得)をカードサイズの小冊子にまとめて配布し、常に携帯させることで、理念や方針に対する職員の意識を高めている。保護者に対しては、理念や方針を記載した入園のしおりを手渡し、また入園前面談において園長が説明している。</p> <p>キャリアパスや業務分担表を用いて、経営層の役割と責任を職員に伝えている</p> <p>園長や副園長といった、園における経営層の役割と責任については、キャリアパスにまとめられており、職員に周知を図っている。また、業務分担表も作成されており、園で必要とされる業務の一覧に対し、その業務を主に担う担当者、園長や主任等の役割を明らかにしている。園長は定められた役割と責任に基づき、園長を補佐する役割の副園長と相談しながら事業計画を策定し、職員への周知を通じて、園の目指す方向性を示し、リーダーシップを発揮している。</p> <p>重要な案件については、管理職会議等で方向性を検討・決定し、職員会議で周知している</p> <p>園内における重要な案件について意思決定が必要な際には、管理職ミーティング、リーダーミーティングなどにより方向性を検討し、決定したのちに、全職員が集まる職員会議で周知を図る仕組みとなっている。職員会議に参加できない非常勤職員等に対しては、議事録を閲覧してもらうことで周知を図っている。重要な案件に関する決定の内容と経緯について、保護者に伝える必要がある場合には、園が導入しているアプリ(保育支援システム)の機能を活用して、お知らせを一斉配信している。</p> | |

| カテゴリ-2 | | |
|--|---|----------------------|
| 2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 | | |
| サブカテゴリ-1(2-1) | | |
| 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6 |
| 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している | | 評点(000000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 事業所の経営状況を把握・検討している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している | ○非該当 |
| サブカテゴリ-2(2-2) | | |
| 実践的な計画策定に取り組んでいる | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5 |
| 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している | | 評点(000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている | ○非該当 |
| 評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる | | 評点(00) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる | ○非該当 |
| カテゴリ-2の講評 | | |
| <p>利用者、職員、地域等を取り巻く環境について情報把握に努めている</p> <p>利用者のニーズは、主に行事や新しい取り組みを行った際にアンケートを行うことで把握し、次年度の計画に反映している。また、保護者会等でも意見を収集し、その後の運営に活かしている。職員の意向については、チェックリストを用いた年2回の自己評価や園長面談を通して意見や要望を把握している。地域の福祉の現状については、自治体からの情報による把握や区園長会で情報収集している。福祉事業全体の動向については、園長会や法人園長会議で把握している。</p> <p>法人全体の中長期計画と港区の方針を踏まえ単年度事業計画の策定をしている</p> <p>港区による設立、指定管理者である運営法人による施設の管理運営という形態となっている。事業計画の策定にあたっては、まず前年度の事業を振り返り、次年度の目標を立てることから始めている。また、この目標が法人全体の中長期計画と港区の方針に沿ったものかを検討して、最終的な計画としている。事業計画は法人の考えを重視した計画と港区の方針に沿った計画の2通りを策定している。</p> <p>年度当初に職員の役割を明確にし、年度末に振り返りを行っている</p> <p>職員の役割は年度当初に決定し、それを基にそれぞれの個人目標を定めている。職員は、定められた役割について年間を通して実行し、同時に個人で立てた目標の達成に向けても取り組んでいる。前期終了時と年度末には、個人で立てた目標の達成状況や園での役割について振り返りを行い、次年度の取り組みにつなげている。</p> | | |

| 3 経営における社会的責任 | | |
|---|---|-----------------------------|
| サブカテゴリ1(3-1) | | |
| 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2 |
| 評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる | | 評点(〇〇) |
| 評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 標準項目 1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる。 | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。 | <input type="radio"/> 非該当 |
| サブカテゴリ2(3-2) | | |
| 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4 |
| 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている | | 評点(〇〇) |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている。 | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある。 | <input type="radio"/> 非該当 |
| 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている | | 評点(〇〇) |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している。 | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を待たせたり、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている。 | <input type="radio"/> 非該当 |
| サブカテゴリ3(3-3) | | |
| 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5 |
| 評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる | | 評点(〇〇) |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる。 | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している。 | <input type="radio"/> 非該当 |
| 評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている | | 評点(〇〇〇) |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている。 | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している。 | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる。 | <input type="radio"/> 非該当 |
| カテゴリ3の講評 | | |
| 就業規則や個人情報保護方針、研修やクレド配布を通じて規範意識向上を図っている 社会人として、福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理については、就業規則や個人情報保護方針等、必要な要綱を定め、職員へ周知を図っている。具体的には、入社時のオリエンテーションで全職員にコンプライアンスに関する研修を実施しているほか、法人が作成したコンプライアンスに関する研修動画を全職員で共有している。また、職員が守るべき法・規範・倫理をもとにまとめたクレドカードを全職員に配布し、常に携行させることで、規範意識の向上に努めている。 | | |
| 苦情解決制度の周知や、虐待防止の取り組みを通じて、利用者の権利擁護に努めている 苦情解決制度における第三者委員等の外部相談窓口については、重要事項説明書を用いて保護者に伝えている。苦情等があれば、苦情対応マニュアルに沿って速やかに記録し、法人本部へ報告の上、組織的に対応している。虐待防止の取り組みとしては、研修のタイミングに合わせて行われている年1回の人権擁護のためのセルフチェックリストを使用して、定期的に人権研修を実施している。 | | |
| 複合施設内の事業所や近隣施設との密に連携を図っている 学童クラブ、区民の交流施設(いきいきプラザ)、認可保育所の3つの事業所から構成される複合施設の中で、相互に交流を図っている。学童クラブには卒園児などもおり、交流の機会がある。いきいきプラザとは、合同の避難訓練などを通して連携を図っている。また、近隣の幼稚園や小学校とも連携を密にできる体制が整っている。交流する中で地域の課題についても共に検討する関係性が構築されている。 | | |

| | | | | | | | | |
|--|--|--|------------------|--|--|--------------|--|------|
| 4 | | | リスクマネジメント | | | サブカテゴリ1(4-1) | | |
| リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる | | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 | | | 5/5 | | |
| 評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる | | | 標準項目 | | | 評点(00000) | | |
| 評価 | 標準項目 | | | | | | | |
| ●あり ○なし | 1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている | | | | | | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている | | | | | | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している | | | | | | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる | | | | | | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる | | | | | | | ○非該当 |
| サブカテゴリ2(4-2) | | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 | | | 4/4 | | |
| 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている | | | 標準項目 | | | 評点(0000) | | |
| 評価 | 標準項目 | | | | | | | |
| ●あり ○なし | 1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている | | | | | | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している | | | | | | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている | | | | | | | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している | | | | | | | ○非該当 |
| カテゴリ4の講評 | | | | | | | | |
| <p>想定されるリスクに対し、マニュアル策定や訓練の実施など必要な対策を講じている</p> <p>事業継続計画や安全計画、各種マニュアル等の作成を通じて、想定されるリスクを洗い出して、優先順位を付けている。必要な対策としては、マニュアル類の整備、毎月の避難訓練やCPR(心肺蘇生法)訓練等、各種訓練を定期的実施している。事故等の再発防止や未然防止のためヒヤリハットや事故報告書を活用している。特に、事故については、クラスミーティングを行い、要因の分析や再発防止策について検討し、職員へ周知している。</p> <p>情報はルールに基づき適切に管理されており、個人情報漏洩防止にも取り組んでいる</p> <p>情報管理のルールについては、入社時のコンプライアンス研修で伝えている。重要なデータや資料は、事務所内の鍵のかかる書庫に整理されている。データ類はクラウド上の共有フォルダで管理しており、アクセス制限や情報漏洩防止対策を図っている。個人情報の利用目的や開示請求に対する対応については、重要事項説明書に記載している。</p> | | | | | | | | |

| 5 職員と組織の能力向上 | | |
|---|--|----------|
| サブカテゴリ1(5-1) | | |
| 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 | 12/12 |
| 評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている | | 評点(00) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる | ○非該当 |
| 評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している | | 評点(00) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している | ○非該当 |
| 評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる | | 評点(0000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている | ○非該当 |
| 評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる | | 評点(0000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賞金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている | ○非該当 |

| サブカテゴリ2(5-2) | |
|--|---|
| 組織力の向上に取り組んでいる | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3 |
| 評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる | 評点(〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2 職員一人ひとりの日頃の気付きや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 3 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる |
| カテゴリ5の講評 | |
| <p>ミスマッチのない採用とキャリアパスによる人事管理を行っている</p> <p>採用に関しては運営法人が主体となって行っており、求人広告等を活用している。雇用のミスマッチを避けるため、現場での面接と見学の機会を設定している。園長と法人の担当スーパーバイザーとともに、実際に園の雰囲気に触れながら園で大切にしていることなどを伝え、応募者の保育観や希望を聞き、適切な人材確保に努めている。入職後は、キャリアアップを目的とした配置転換も行っている。等級別人事考課基準がキャリアパスとして機能しており、目標設定や振り返り、園長面談で活用している。</p> | |
| <p>職員の身体面、精神面の健康管理により意欲と働きがいの創出に取り組んでいる</p> <p>職員の身体面や精神面での健康管理には特に注視している。意欲と働きがいを持って業務にあたるには、職員が健康であることは大前提である。そこで、看護師と連携して職員の健康管理に取り組んでいる。特に、勤務時間については、管理者が職員の業務量などをしっかりと把握し、適正な業務分担と体制を構築しなければならない。そこで、園長、副園長が職員の勤務状況の把握して改善を行い、法人の担当スーパーバイザーが定期的に園を巡回し職員とコミュニケーションを取るなど、管理体制を整えている。</p> | |
| <p>研修での学びの共有に加え、日々の気付きや工夫を共有し現場に活かしている</p> <p>研修報告書により職員間で学びを共有している。職員会議でも受講した研修の内容を報告し共有を図っている。職員会議の場では、職員同士の積極的な意見交換を重視しており、その中で職員一人ひとりの日頃の気付きや工夫を共有し、業務改善やサービスの質の向上につなげている。また、研修報告の機会は、学びだけではなく、職員間の交流を図る良い機会にもなっている。</p> | |

| | |
|---|--|
| カテゴリ-7 | |
| 7 事業所の重要課題に対する組織的な活動 | |
| サブカテゴリ-1(7-1) | |
| 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている | |
| 評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1) | |
| 前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) | |
| 園では、子ども一人ひとりの心に寄り添い、丁寧な保育を行うことを前年度の目標とした。その取り組みとして、園目標である『子どもまんなか』の共通認識するため、職員会議での全体周知や毎月の管理職会議(園長・副園長2名・副主任2名で構成)内での保育活動報告の際に、子どもを真ん中に保育が行われているかを確認し、また、実際の保育現場では副主任がクラスに入ることで、子ども主体の保育が行われているかを確認した。園は集団ではあるが基本は一人ひとり、そこから集団につけて欲しいことを伝えた。『子どもまんなか』の保育は、職員も年度が進むと意識は高まってきている。園としては、まだまだ大人の都合での保育もある現状をとらえ、「できない」のではなく、「どうしたらできるのか」で考えていくことを課題として認識している。そのため、今年度は、法人理念、法人基本方針から策定された保育目標を全職員が共通理解したうえで保育を実践していくこと、そして、子ども主体の丁寧な保育を行っていくことを、目標として設定したとした。 | |
| 目標の設定と取り組み | <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった |
| 取り組みの検証 | <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |
| 検証結果の反映 | <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |
| 評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 | |
| 保育園の主役は何といても子どもである。このことを職員に分かりやすく、表現として最も適した言葉が「子どもまんなか」である。保育をしていく中で、知らず知らずのうちに保育士本位になる傾向があり、保育士自身も意識的に行っていることではなく、環境的な要因などから無意識になる傾向がある。前年度は、意識をして保育に取り組むように、目標を「子どもまんなか」という言葉を皆で意識して考えた。その結果、職員は意識が高まってきた。しかしながら、これで全面解決ではなく、今後も継続して行く必要は当然ある。今年度はもう少し進んだ目標を掲げ、「子どもまんなか」の意識を継続して高めていくように取り組んでいる。 | |

| | |
|--|---|
| <p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p> | |
| <p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>園では、自らの職位や職務に合った能力を身につけることを目標とした。その取り組みとして、東京都のキャリアアップ研修に参加できる機会を設け、1年間で5名の職員が研修に参加した。港区主催の研修は本人希望、また、それぞれのキャリアに応じた研修に参加した。参加した職員は、自身の学びの向上だけでなく、園内研修でフィードバックを行ったことで園全体の学びの向上にもつなげた。今後は、職員一人ひとりが課題意識を持ち、自ら研修希望を出すことが多くなるようアドバイスできるようにしていくことを課題としてとらえている。また、役割として何をやったら良いのか分からず、その場だけの業務分担になっていたため、職位や職務にあった業務内容をもう少し明確に職員に伝え、その上で業務に取り組みたいと考えている。さらに、能力を身につけるための園内研修については、準備時間の確保、研修時間を十分に確保できるようにしたいと考えている。今後は、職員がさらに能力を身につけるために、一人ひとりが課題意識を持ち、自ら研修に参加し、学んだことを園内研修で伝え、実践できるようにしていく方針である。</p> | |
| <p>目標の設定と取り組み</p> | <p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p> |
| <p>取り組みの検証</p> | <p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p> |
| <p>検証結果の反映</p> | <p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p> |
| <p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>職員が自らの職位、職務に合った能力を身につけるためには、職員一人ひとりのスキルアップが必要である。スキルアップするにも、どのスキル(能力)を上げる必要かは、園として職員個々の職位、職務で求めている業務分担を明確に伝え、職員自身が考えることが大切である。そのように職員自身が考え、スキルアップを図るための研修を受講して、その内容を業務に活かせるように取り組んでいる。今後も継続して、職員一人ひとりが課題意識を持ち、自ら課題解決に向けて学んでいくよう取り組んでいくことが大切である。</p> | |

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

| No. | 共通評価項目 | |
|--|---|----------------------|
| サブカテゴリ1 | | |
| 1 | サービス情報の提供 | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4 |
| 評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している | | 評点(〇〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している | ○非該当 |
| サブカテゴリ1の講評 | | |
| <p>園の基本情報や保育の特徴を、ホームページでわかりやすく発信している</p> <p>運営法人及び区との連携のもと、区のホームページにより、誰もが見られるように情報提供をしている。法人のホームページでは各園のページで保育目標、施設概要や紹介、施設ブログでは食育、行事や活動等、取り組みの一部を写真やコメント付きでわかりやすく案内している。また、法人のホームページでは理念に基づいた取り組みとして、バランスの良い安全な給食の提供、「食」を通じた学びと生活の体験する「食育」、遊びの中で生きる力を育む「アクティビティ」の多彩な学習プログラムの実施等、利用希望者に対して園の情報を積極的に発信している。</p> <p>利用希望者が知りたい情報の内容や表記をわかりやすいものにして提供している</p> <p>ホームページの他にリーフレットを活用している。リーフレットには法人が示す保育目標、運営方針、運営理念を明記している。リーフレットは利用希望者の特性に合わせて、写真や文字のフォントや紙面のサイズを考慮し、見やすい構成にしてカラーで印刷している。施設の特徴として大切にすることを記載し、アクティビティやデイリープログラム、給食・おやつ・食育、行事、概要、施設の平面図、地図等の情報を記載している。また、園の情報は毎月区に定期報告をしており、施設情報の変更となるタイミングで区のホームページの更新を行っている。</p> <p>問い合わせや見学の要望については個別の状況に応じて対応し、情報発信に努めている</p> <p>見学は、都のサービス(保活ワンストップ)を利用したものと合わせ、電話での予約枠も設けている。利用者の都合に合わせて柔軟に日程を決定している。見学時は園内を案内し、保育環境や活動の様子から普段の子どもの姿や職員とのやり取り等、園生活の日常を見てもらいながら、園が大事にしている保育について伝えている。持ち物や体調を崩した際の連絡、園生活への心配事等、利用希望者の知りたいことを踏まえて質問に応え、丁寧に説明している。また、SNSを利用した園紹介及びブログの投稿等、鮮度の高い情報発信を心がけている。</p> | | |

| サブカテゴリー2 | | |
|--|--|-----------------------|
| 2 | サービスの開始・終了時の対応 | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6 |
| 評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている | | 評点(〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している | ○非該当 |
| 評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている | | 評点(〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている | ○非該当 |
| サブカテゴリー2の講評 | | |
| <p>園の基本情報と保育方針を丁寧に伝え、保護者の同意を得るようにしている</p> <p>新入児面接や入園説明会を設け、保護者と対話しながら、重要事項説明書等を用いて園の理念、目標、方針等を説明している。また、持ち物、保育時間、慣れ保育の説明や確認をし、子どもへの配慮事項を確認し、保護者の不安に寄り添い丁寧に対応している。保護者の意向は入園面接チェックシートに記載している。サービスを提供するにあたり意向の確認が必要な項目については同意書を提出してもらっている。同意の有無については、個人ファイルを作成し職員間で共有している。就労や家庭状況等に変化があった際は、保育時間の確認を再度行っている。</p> <p>子どもの保育に必要な情報等を記録し、把握して職員間で共有している</p> <p>入園面接時に収集した保育に必要な情報を児童票に記録し、職員間で共有している。アレルギー児への対応や与薬については面接時に確認し、アレルギー確認書、与薬指示書等の書面で同意を得ている。入園に際して契約書を取り交わし、個人情報の取り扱いを含め、保護者の同意が必要な事柄については説明をしたうえで承諾を得ている。保護者の就業予定にも配慮しながら、子どもの様子に合わせて保育時間を延ばす慣れ保育を行っている。子どもと保護者が共に安心して園生活を送れるよう、送迎時にはできるだけ声をかけ、園全体で子どもを見守っている。</p> <p>子どもや保護者が環境の変化に対応できるよう配慮した支援を行っている</p> <p>退園等でサービスを終了する際にはクラスごとにお別れ会等を実施したり、卒園児には在園児から小物入れ等の手作りプレゼントを贈ったりしている。必要に応じて子どもの様子を保護者に伝え、「何かあればいつでも相談に来てください」と伝えている。また、保護者の同意のもと、転園先への情報提供をする支援体制がある。就学の際は保育所児童保育要録等を小学校に提出し、情報共有して子どもが安心して新しい生活に慣れることができるよう配慮している。5歳児は連携する小学校や学童クラブとの交流を経験する中で、就学への期待感を膨らませている。</p> | | |

| サブカテゴリ-3 | | |
|---|--|------------------------|
| 3 | 個別状況の記録と計画策定 | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13 |
| 評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している | | 評点(〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている | ○非該当 |
| 評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している | | 評点(〇〇〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている | ○非該当 |
| 評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している | | 評点(〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している | ○非該当 |
| 評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している | | 評点(〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている | ○非該当 |
| サブカテゴリ-3の講評 | | |
| 個別の面談等を通じて収集した情報を記録し、定期的な見直しや共有に努めている 保護者会や個人面談を定期的に行い、保護者の意見や要望を把握し、面談記録に適宜追記し昼礼等で共有を図っている。園全体の事項については、園長、副園長、必要に応じて看護師、栄養士で話し合いミーティング記録に記載している。子どもの姿や発達、健康状態、家庭状況等は、システムを使い定められた時期に児童票に記録している。個々の子どもの課題についてはクラスミーティングを中心に、0、1、2歳児は毎月、3、4、5歳児は4期(3か月に1回)に分けて話し合いを行っている。家庭状況に変更があった際には随時情報を更新し共有している。 | | |
| 全体的な計画を踏まえ、職員で話し合い各指導計画を策定している 全体的な計画を踏まえ、保育所保育指針に基づき年間、月間、週案、個別(乳児クラス)の指導計画を立てている。各計画は、日々の子どもの興味・関心や姿を踏まえ、また、自然環境や社会現象の変化に応じ、成長・発達に合わせて柔軟に策定や変更を行っている。「全体的な計画」は年度当初にシステムにより配信し、保護者会で説明をしている。毎月の園だよりには月の保育のねらいを記載し、週の予定は玄関エントランスに掲示している。その他に「ドキュメンテーション」を活用した情報発信に努めている。 | | |
| 子どもの状況や情報を共有し、職員同士の伝達をスムーズに行っている 記録に関しては、システムを使用することで全職員に周知しやすくなっている。昼ミーティングや職員会議等で子どもの様子や保護者の状況の情報をタイムリーに共有できている。月1回程度、副園長も出席で各クラスミーティングを行っている。非常勤職員も会議録を見て議事の内容を共有する他、口頭でも伝えている。延長保育に引き継ぐ事項は、各クラスの健康観察簿に記載し担任から延長保育の担当に漏れないよう伝えている。各指導計画に記載された個別の対応については園全体の共有課題として全職員が情報を確認し、対応できるようにしている。 | | |

| サブカテゴリ5 | | |
|---|--|-----------------------------|
| 5 | プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 | サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5 |
| 評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している | | 評点(〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 子どもに関する情報(事項)を外部和り取りする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている | ○非該当 |
| 評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している | | 評点(〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている | ○非該当 |
| サブカテゴリ5の講評 | | |
| <p>子どものプライバシー保護と情報管理の徹底に取り組んでいる</p> <p>子どもに関する情報を外部とやり取りする必要がある場合に備え、入園前の面談時に保護者の意向を確認し同意を得ている。子どもだけでなく、保護者の思いや価値観、家庭状況を職員で共有しながら、保護者や子どもの状況に寄り添った対応ができるようにしている。実際に他機関と子どもに関する情報をやり取りする際には、園長の管理のもと、慎重に対応している。職員は、子どもの権利を守ることを意識し日頃から自分自身の言動を振り返り、小さな気づきでも互いに声に出して話し合い確認し、組織として統一した対応ができるよう努めている。</p> <p>子どもの権利について学びを深め、個々の意思を尊重した保育に努めている</p> <p>日々の保育の中で子どもの人権について考え、羞恥心に配慮した対応ができるよう職員間で学び合い、共通理解を図っている。年齢に合わせた健康教育に取り組み、看護師がプライベートゾーンについて伝えている。幼児はプール時の着替えでラップタオルを使用する等、着替えの手順ややり方等を知らせている。また、おむつ交換は決められた場所で子どもの羞恥心に配慮して行っている。遊びや生活の場面で、子どもが「食べたくない」「行きたくない」「やりたい」等、主張した時は、まずその思いを汲み取り、一緒に考えて選択できるように援助している。</p> <p>虐待防止や育児困難家庭への支援、個人の尊厳を守ることについての学びを深めている</p> <p>運営法人が作成している「虐待防止マニュアル」と並行して、子ども家庭庁発行の「保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等ガイドライン」を活用して虐待防止に努めている。職員は、人権擁護のためのセルフチェックリストを活用して振り返りを行い、子どものプライバシーの保護等、個人の尊厳の尊重について常に意識して保育に取り組んでいる。また、気になる事例がある場合には職員間で報告し、話し合いをしている。虐待等の情報を得た際には関係機関に速やかに連絡するシステムがあり、迅速に対応ができるようになっている。</p> | | |

| サブカテゴリ-6 | | サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 | 5/5 |
|--|---|----------------------|-----|
| 6 事業所業務の標準化 | | | |
| 評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている | | 評点(〇〇) | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| ●あり ○なし | 1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている | ○非該当 | |
| ●あり ○なし | 2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている | ○非該当 | |
| ●あり ○なし | 3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している | ○非該当 | |
| 評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている | | 評点(〇〇) | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| ●あり ○なし | 1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている | ○非該当 | |
| ●あり ○なし | 2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている | ○非該当 | |
| サブカテゴリ-6の講評 | | | |
| <p>定期的なマニュアルの確認やフローチャート掲示で、業務手順の徹底に努めている</p> <p>職員が共通認識を持ち、同じ手順で対応できるよう、各種マニュアルや法人としての基準書(冊子)を活用している。保育業務、与薬、衛生、感染症等の各種マニュアルを整備し、基本的なサービスの手順を明確にしている。区の各種マニュアルも所定の場所に備え、いつでも確認できるようにしている。マニュアルに記載された基本事項や手順等は定期的に点検し、マニュアルが変更された際には全職員で閲覧し会議等で確認している。園内の必要な場所には実施頻度の高い業務手順のフローチャートを掲示し、誰でもすぐに確認できるよう工夫している。</p> <p>行動規範を明確に示し、理念の浸透と職員の意識統一を図っている</p> <p>運営法人では、入社時に職員の一人ひとりの行動規範としてクレドを配布し、社会福祉施設で働く職員として守るべき心得と行動の基準を示している。入社時の社内研修では、目指す保育について周知し理念の浸透を図っている。保健、調理に関しては、看護師、給食担当者会議でマニュアルの見直しを行い、必要に応じて適宜改定をしている。法人としての基準書(冊子)の内容の周知を図り、全職員が同じ方向を向いて保育ができるようにしている。日常業務を行う中で手順の確認が必要と判断した場合には、職員会議等で確認し、意識の統一を図っている。</p> <p>保護者の意向を踏まえマニュアルの見直しを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>運営法人の園長会で園業務マニュアルについて定期的に見直しをして、業務の適正化に必要な修正を行っている。日頃の保護者との会話や保護者会、個人面談での意見やアンケートから保護者の声を収集し、クラスミーティングや職員会議、日常の振り返りの中で職員の意見を把握している。年度末のアンケートや行事後のアンケートで収集した意見は、集計後、改善策を含め次に向けた方針を明示して園内に掲示して周知を図ることで、保護者とも共有している。また、運営委員会の話し合いからも要望、意向等を吸い上げ、園の取り組みに活かせるようにしている。</p> | | | |

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

| | | サブカテゴリ4 | |
|--|--|------------------|---------------------------|
| サービスの実施項目 | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 | 36/36 |
| 1 | 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている | 評点(000000) | |
| | 評価 | 標準項目 | |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている | | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している | | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している | | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している | | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている | | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している | | <input type="radio"/> 非該当 |
| 評価項目1の講評 | | | |
| <p>一人ひとりの発達を把握し、全体的な姿に応じた保育を行っている</p> <p>入園前の子どもの状況は保護者との新入園面談や健康診断、児童票等で把握している。身体の発達状況については、入園後も園の嘱託医や看護師による定期的な健診と身体測定を行っている。子ども一人ひとりの姿を把握するため、生活状況を確認し、家庭と連携しながら日々の生活の様子や成長、発育を把握し、どのような配慮が必要かを検討したうえで保育を行っている。子どもの姿や興味関心に目を向け、日々の振り返りやクラス会議等で子どもが自ら遊びに向かえる環境作りを話し合い、年齢に応じた玩具等の提供や環境設定の工夫、見直しをしている。</p> <p>「子どもまんなか」を園全体で共有して、個々の成長・発達を考えた支援をしている</p> <p>園目標である『子どもまんなか』の保育の実現と、子どもの主体性を育てるため「やってみよう」と思う気持ちになる人的な環境を含めた環境設定を追求している。「なぜ」から「知りたい」気持ちを育むことを目的とし、子どもが課題を見つけ自分なりの解決方法を考え、試していくプロセスを大切にしている。子どもの心に寄り添うことをクレドに掲げ、日々の保育の中でそれを実践できるよう共通認識を持ち、職員同士で声をかけ合っている。また、巡回指導や他機関との連携により、集団で過ごす際に必要な援助や働きかけや考え方等の助言も受けている。</p> <p>子どもの気持ちを尊重し、関係機関や関係者と連携を取りながら必要な援助をしている</p> <p>子ども同士のトラブル等が起こった場合には、危険なことは伝えながらトラブルの背景を理解し、子どもの気持ちに寄り添った対応を心がけている。様々な園にルーツを持つ子どもや保護者が在籍する中で、言葉の壁がある場合はジェスチャーや視覚的な支援を活用して、安心して活動に参加できる環境を作っている。互いに認め合う心や尊重する気持ちが育まれている。5歳児は就学に向けて保幼小連携を深め、就学への期待につなげている。小学校の行事や授業体験の参加、近隣の保育園等との様々な交流の機会を通して、コミュニケーションを深めている。</p> | | | |

| | | |
|---|---|----------|
| 2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている | | 評点(0000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている | ○非該当 |
| 評価項目2の講評 | | |
| <p>子どもの体調や様子を保護者と連携して把握し保育に活かしている</p> <p>登園時には体調や顔色、体温、けがの有無等の確認を行い、必ず保護者に声をかけて口頭でも子どもの様子を共有し、体調の把握に努めている。乳児は連絡ノートでも確認し、必要な事項は健康観察簿に記載している。その情報は職員間で共有し、保育に反映している。子ども一人ひとりの様子を日々確認しながら、子どもの生活が安定するよう保育を行っている。送迎の際は必ず、担任や当番担当職員が個別に声をかけ挨拶を交わし、担任と情報を共有している。状況に応じて、看護師、栄養士等、専門職の職員にも伝えて連携して保育にあたっている。</p> <p>保護者との連携を大事にして、一人ひとりの発達の状態に応じた援助をしている</p> <p>子どもが自分で身の回りのことができるようになることを目標に、保育者が子ども一人ひとりの発達を理解し、子どもが自分でやろうとしている時は見守りながら、必要な時はさりげなく援助をして達成感を得られるようにしている。食事や排せつ等の基本的な生活習慣の自立に向け、必要に応じた援助ができるようにマニュアルを作成し、同じ手順で保育者が子どもに関わることで、子どもが自ら見通しを持って迷わず行動できるようにしている。保護者には、保護者会等で生活リズムについての取り組みを伝え、園保育への理解と子どもの姿の共有を促している。</p> <p>その日の子どもの様子を保護者一人ひとりに伝え、保育の共有に努めている</p> <p>午睡を含めた休息については、必要な休息の長さやリズムが異なるため、個々の子どもの様子に応じて対応している。降園時の引き渡しでは、保育体制の変化により漏れが生じないよう、伝達が必要な事柄は健康管理簿に記載し、当番の職員が確認している。当番担当者は引継ぎをしっかりと行い、日中の様子をひと言でも保護者に伝えるようにして保育の共有に努めている。特にけがや体調不良の際は、状況を必ず伝えている。必要に応じて園長や看護師、栄養士も対応している。延長保育利用の場合は伝達や内容によっては、支援システムを使い保護者へ伝えている。</p> | | |

| | | |
|--|---|------------|
| 3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している | | 評点(000000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している | ○非該当 |
| 評価項目3の講評 | | |
| <p>子どもの主体性、自主性を尊重し、安心して遊べる環境づくりに努めている</p> <p>子どもが自分で好きな遊びを選んで遊び込める環境を作っている。また、遊びの様子を観察しながら、どのような環境を用意すれば遊びが展開できるかを見極める視点を持って保育を行い、子どもが集中している時はその活動を大切に、継続できるように配慮している。子どもが自ら「やってみよう」と思えるような活動を提供し、コーナーを作って集中して楽しめる空間を設け、それぞれが選択できる環境と楽しめる時間を確保している。健康・人間関係・環境・言葉・表現の5領域をバランスよく活動に取り入れるように指導計画を作成し、その実践を図っている。</p> <p>年齢に合わせたプログラム活動を通じて楽しみながら生活や遊びの経験の幅を広げている</p> <p>日々の生活や遊びの中で子どもの気持ちに寄り添い、見守りながら必要に応じて声をかけ、職員との応答的なやり取りを楽しめるようにしている。また、全園児が音楽・スポーツ・語学、さらに4、5歳児は芸術の専門講師によるオリジナルアクティビティを月1回導入している。外国の文化に触れ、楽器に親しみ、元気に身体を動かし、描いたり作ったりして楽しむ機会を設け、子どもが遊びの中で柔軟にたくましく、生きる力の根っこを育むことをねらいとして取り組んでいる。活動の様子はドキュメンテーションで発信し、子どもの姿を保護者と共有している。</p> <p>身近な自然を活用しながら生活や遊びを豊かに展開し、子どもの心を育てている</p> <p>積極的に園庭遊びや戸外遊びを取り入れ、様々な環境を活用して子どもが自然と触れ合い、五感で楽しめるようにしている。近隣への散歩に出かけ、木々や草花等、周囲の様子に目を向け、変化に気づけるような視点を取り入れている。4、5歳児クラスは、バスで園外保育に出かけ、社会性や新しい環境を学ぶ機会がある。また、友達と協力する場面を意図して設け、生活や遊びを通してきまりの大切さに気づけるよう折に触れて伝え、自分の気持ちを調整できる時間や空間を保障している。</p> | | |
| 4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している | | 評点(000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている | ○非該当 |
| 評価項目4の講評 | | |
| <p>子どもの興味や関心を広げ、主体的に行事に関わることができるようにしている</p> <p>行事は、日常の遊びや生活の中で子どもたちが興味関心を持ったことや、やってみようとして取り組んできたことを保護者の皆様にも見せながら成長を感じていただける場としている。常に行事は日々の保育の延長にあると捉えている。保育者は、行事を進めるにあたって子どもの主体性を重視し、子どものやりたい気持ちを大切にしている。友達から刺激を受け、自ら表現する等、楽しく参加しながらみんなで協力する姿が見られている。行事で経験したことがその後の活動へとつながり、展開しながら継続している姿が見られている。</p> <p>子どものやってみたい気持ちを尊重し、やり遂げる力を育み、自信につなげている</p> <p>夏祭り、運動会、作品展、発表会等、各行事の担当者を中心に企画、実施、振り返りを行っている。幼児では、担任と子どもがその行事で保護者に何を見せたいかを話し合う機会を大切にしている。「やってみよう」という子どもの意欲を尊重し、子どもからのアイデアを職員が受け止め、随意助言しながら活動を組み立てている。夏祭りでは、子どもが力を合わせ、夏の雰囲気味わうと共に、4、5歳児クラスの子どもが屋台を作ってやり取りをしたり、ゲームをしたり、「小さいクラスに楽しんでもらいたい」という気持ちが達成感や自信にもつながった。</p> <p>行事の取り組みを通じて子どもの成長を伝え保護者と共有している</p> <p>「日常生活の節目として大事に伝えていきたい」と考え、伝承行事の持ち方を工夫し取り組んでいる。保護者参加の行事に関しては、保護者が参加しやすいような日程、時間、場所の設定をして、事前に行事目的、当日の流れ等を丁寧に伝えている。取り組みに向けた過程を大切に、行事当日の姿だけではなく、友達と関わりながら目標に向かって取り組んでいる様子等、写真等を添えて積極的に保護者に伝えている。日々の取り組みでの葛藤が自信につながっていく様子や子どもの姿を保護者と共有することで、園への理解と協力を得られるようにしている。</p> | | |

| | | |
|--|--|--------|
| 5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている | | 評点(〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている | ○非該当 |
| 評価項目5の講評 | | |
| <p>保育時間の長い子どもが安心して過ごせるよう、個々に合わせて環境を整えている</p> <p>朝夕保育では人数に応じた保育体制を整え、子どもがゆったり安心して過ごせるようにしている。保育の状況に合わせて環境を整え、合同保育の中で乳児・幼児共に安全に過ごせるように玩具を選び、保育室内の配置を変える等、配慮している。夕方の時間は子どもによって疲れが見られることもあるため、必要に応じてくつろげる空間を設け夕寝ができる場所を作る等、個々に合わせた対応ができるようにしている。また、一時保育室を活用してコーナー遊びの場所を設けたり、一時保育室にしかない玩具で遊んだり、落ち着いて過ごせるように空間を整えている。</p> <p>保育形態が変わる中で引継ぎに配慮しながら、子どもが安心して過ごせるようにしている</p> <p>朝夕保育は、時間帯により職員の入れ替わりや保育形態が変わるため、保育の引継ぎ事項を各クラスが当番へ細かく伝達し、子どもの様子をしっかりと把握できるようにしている。延長保育の際の引継ぎは、健康観察簿を活用し口頭でも伝え、連絡漏れがないように細心の注意を払っている。状況により、担任ができるだけ関わることができる当番体制を組む等、子どもの負担を少なくする配慮も行っている。また、子どもの人数や様子を見ながら遊具を入れ替えたり、子どもが興味を持てる遊びの設定を工夫したり遊びが途切れないよう配慮して保育にあたっている。</p> <p>異年齢児が関わり楽しく過ごせるよう子どもの気持ちに寄り添いながら援助している</p> <p>迎えの時間を待つ子どもの気持ちに寄り添いながら丁寧に関わり、安心して過ごせるようにしている。18時16分以降の延長保育には時間により補食や夕食の提供を行っている。いずれも区共通の献立のもと、手作りものを提供している。異年齢の合同保育の場面では、日頃から交流があり顔見知りの子も同士が、互いの様子を気にしながら兄弟姉妹のように自然に関わる姿が見られている。また、担任同士で子どもの姿を共有し、互いの保育を見合う良い機会となっている。子どもの姿を共有することで、落ち着いて過ごせる環境設定にも役立てている。</p> | | |

| | | |
|--|--|-----------|
| 6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している | | 評点(00000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている | ○非該当 |
| 評価項目6の講評 | | |
| <p>子どもが楽しく、落ち着いて食べることができるように配慮して食事を提供している</p> <p>子どもの発達に合わせたテーブルや椅子を整え、正しい姿勢で食事ができるように配慮し、食具も個人差に合わせたものを用意している。食事は美味しく楽しく食べることを第一に旬の食材を取り入れ栄養バランスを考え、区で作成した共通献立をもとに、子どもの喫食状況を毎日確認しながら味付け等を工夫している。幼児クラスでは、職員も一緒に食事をとり、友だちや職員との会話を楽しみながら食べている。特に乳児に関しては、保育士と栄養士が家庭と連携しながら調理形態や味付け、食材等、一人ひとりの発達や発育に合わせて提供できるようにしている。</p> <p>一人ひとりの子どもの年齢や体調等に合わせた食事を提供している</p> <p>給食献立はサイクルメニューを使用しており、給食会議で給食担当と子どもの嗜好を把握し、1回目に食べ進みが良くなかったものは2回目に調理方法や味付け等を工夫して提供している。離乳食を提供する際には食形態等、家庭での様子を保護者と確認しながら段階を進めている。食物アレルギー児に関しては、入園前の面談で生活管理票に基づき保護者と確認を行い、除去食を提供している。マニュアルに則り別トレーに用意してチェック表を用いて口頭及び目視確認を複数で行い、全職員が誤食を防ぐための手順を理解し細心の注意を払い配食している。</p> <p>食への関心を広げ、楽しく食べられるよう、園全体で様々な食育に取り組んでいる</p> <p>子どもが食の大切さや食材に対する感謝の気持ちを持てるよう、各クラスでできることを話し合いながら進めている。野菜を栽培して収穫し、食べる等、食育計画に基づいた調理保育や、栄養士を中心に三色食品群、箸の持ち方等の話を聞く等、食への興味・関心を深めている。給食の食材提供業者の搬入時に品物を受け取り、子どもが野菜の話等を聞いたり取りの機会を設けている。5歳児は、あきる野市での自然体験に参加し、ニジマスのつかみ取りの体験もしている。希望者は区内の農園で野菜の収穫体験を行う等、食に関する様々な取り組みを行っている。</p> | | |
| 7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している | | 評点(000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気がけがを予防・防止できるように援助している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている | ○非該当 |
| 評価項目7の講評 | | |
| <p>日々の活動を通して子どもが健康や安全に関心を持てるようにしている</p> <p>看護師と保育士が連携し子どもの健康管理や衛生管理を行い、安心して園生活が送れるよう配慮している。登園時には看護師も保護者に積極的に声をかけてコミュニケーションを図り、子どもの健康状態を把握している。日々保育の中で危険な場所や遊び方について伝え、安全に遊べる環境の整備に努めている。看護師による保健指導では、年齢に合わせてうがいや歯磨きの指導も行い、子どもが主体的に自分の体の健康維持ができるよう支援している。また、看護師が中心となり職員向けにAEDを使用した救急救命訓練等に取り組む、万が一の対応に備えている。</p> <p>子どもの健康を維持できるように危険防止策を見極め適切な対応ができるよう努めている</p> <p>園生活の中でけがや事故につながる恐れがある気づきはヒヤリハットとして報告し、記録を作成して昼礼や職員会議で周知し、全職員が共有している。実際にけがにつながった事案はアクシデント報告書を作成して振り返り、速やかに対策を検討している。また、看護師が毎日各保育室を巡回して子どもの健康状態を把握し、気になる場合は早めに報告・連絡する等、個々に寄り適切な対応が取れるようにしている。医療的ケアが必要となる子どもの保育については学びを深めており、医療機関や各専門機関と連携を図り、協力して支援にあたる体制を備えている。</p> <p>保護者と連携して子どもの健康を守る取り組みや情報提供をしている</p> <p>登園時には健康観察や連絡帳にて子どもの体調を把握している。体調に変化のある場合は看護師を中心に速やかに園内で共有し、状況に応じて保護者へ連絡を取り、日中の健康状態について丁寧に伝えている。日々の病気による欠席状況はエンタランスに掲示している。感染症発生時は、必要に応じて保育支援システムでタイムリーに情報を発信し、感染の拡大予防につなげている。乳幼児突然死症候群の予防に関してはほけんだよりや保護者会でも伝え、注意を喚起している。全園児、午睡時にはプレステックを行い、0歳児クラスではセンサーも使用している。</p> | | |

| | | |
|--|--|-----------|
| 8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている | | 評点(00000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 保護者同士が交流できる機会を設けている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している | ○非該当 |
| 評価項目8の講評 | | |
| <p>保護者の個々の状況に配慮して、安心して子育てができるよう支援している</p> <p>入園時に家庭状況を確認し、日々の送迎時や連絡帳、個人面談等を通して一人ひとりの保護者との信頼関係を深めながら家庭と子どもの姿の共有に努めている。保護者の状況を理解し、できる限り個別の事情に寄り添い、安心して働くことのできる環境の整備に努めている。補食や夕食が用意できる直前の時間まで当日でも延長保育の申込みを可能とし、急な残業や土曜日保育の依頼等にもその都度対応している。送迎時の会話や連絡帳のやり取り、個人面談等を通して要望等を把握し、園内で情報共有しながらより良い支援ができるよう対応を検討している。</p> <p>保護者同士が話し合い交流ができる機会を設けている</p> <p>保育参加、参観や年2回のクラス懇談会や保護者が参加する行事等を通じて保護者同士が交流できる機会を設けている。懇談会では、保護者の子育ての悩み等のテーマを募ったり、担任が提案したりする等、会の進め方を工夫し、保護者同士で話し合うことができる時間を設けている。保護者からの質問や悩みについては職員も一緒に考え、アドバイスを伝えることで不安の解消へとつなげている。個別面談は随時受付をしており、必要な時にはいつでも個別で面談できる体制がある。また、保育参加、保育参観後には茶話会を開き、様々な話ができるようにしている。</p> <p>園の保育の理解を促し、保護者の養育力向上につなげている</p> <p>日頃から保護者とのコミュニケーションを大切にし、クラスだけでなく園全体で子どもを見守り、子育ての悩みや気持ちに寄り添い、安心して子育てに向き合えるように努めている。エントランスには、いつでも見ることができるよう大きな木をベースにして、園の目標や大切にしたいことと、成長の様子を絵と文字でわかりやすく示し、保護者と共有できるようにしている。保護者会では、「ねらいに基づいた取り組みが子どもの成長や発達にどのように反映されているのか」について話し、保育支援システムのドキュメンテーションも活用して伝えている。</p> | | |
| 9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている | | 評点(00) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している | ○非該当 |
| 評価項目9の講評 | | |
| <p>地域資源を活用し、子どもが体験や交流できる機会を広げている</p> <p>複合施設の特徴を活かし、施設内で交流を図っている。区民の交流施設(いきいきプラザ)での作品展には園児の作品を出品している。敬老の日の取り組みにも参加し高齢者と触れ合い、喜ばれている。会話を交わし、たくさん褒めてもらう機会は子どもにとっても嬉しく、自信につながっている。学童クラブとは発表会の見学やハンドベル演奏会への参加等があり、近隣の小学校との交流では年長児は就学に向けて期待感を膨らませている。近隣の公園の植込みの手伝い等にも参加しており、地域との様々な場面での関わりを通して、子どもの生活の幅を広げている。</p> <p>職員以外の人と交流する機会を通して子どもの生活の幅を広げ自信につなげている</p> <p>夏祭り、運動会、作品展等の保護者参加の行事は、地域の方に参加を呼びかけている。また、地域の子育て家庭を支援するため、園見学や身体測定、室内や園庭の遊びを提供している(ほいくえんであそぼう)。在園児と一緒に遊んだり、参加している子どもの親と園児が関わったりする場面も見られる。園児が職員以外の大人と一緒に過ごし、交流する中で良い刺激を受け、いつもとは少し異なる表情や反応を見せる等、新たな一面を発見することもある。また、総合避難訓練では消防署、交通安全指導には警察の協力を得ながら子どもの経験を広げている。</p> | | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み① | | |
|--------------------|--|----------------------------|
| 評価項目 | 6-4-1 | 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている |
| タイトル① | 子どもの満足を探り、気持ちに寄り添う丁寧な保育に目を向け園全体で取り組んでいる | |
| 内容① | 園目標である『子どもまんなか』を共通認識とした保育実践を追求している。職員会議での全体周知や毎月の管理職会議での保育活動報告の際は、「子ども主体の保育が行われているか」を改めて振り返り、実際に副主任がクラスに入ることで現場での保育を確認している。「まずは一人ひとりの気持ちを大事にして、そこから集団につなげて欲しい」ことを明確に伝えたことで、職員は「どうしたらそれを実現できるのか」に目を向けて考え、『子どもまんなか』という視点に基づいて楽しく過ごすために工夫し、歩みを進めようとする共通意識が高まっている。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み② | | |
|--------------------|--|--------------------------------------|
| 評価項目 | 5-2-1 | 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる |
| タイトル② | 職員一人ひとりが事業所の目指していることを理解して業務に取り組んでいる | |
| 内容② | 運営法人の理念、保育目標に基づいた保育が行われている。行動規範を意識するクレドカードを職員に配付している。年度当初には各職員の役割を明確にして伝えている。キャリアパスを見直し、各等級が目指すべきことをよりわかりやすく明記したことで、目標設定がしやすくなり、その目標に向かい業務に取り組むことができるようになった。また、評価制度と研修が連動するようにして、個々の資質向上を図っている。職員と園長とのヒアリング以外にも、担当のスーパーバイザーによる定期的な巡回があり、何かあれば相談することができる体制を整えている。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み③ | | |
|--------------------|--|-------------------------------|
| 評価項目 | 6-4-6 | 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している |
| タイトル③ | 食についての興味や関心が広がるよう年間を通して計画的に食育に取り組んでいる | |
| 内容③ | 食育について園全体で共通認識を図り、年齢ごとに計画的な活動を継続的に実践している。四季を通じた野菜の栽培や収穫、調理保育では、子どもが食材に触れ、野菜をちぎったり、皮むきをしたり、形、匂いや重さを体感することで五感を使い豊かな経験ができるよう心がけている。年齢に合わせて、サモサやパフェ、おにぎりやクッキー作り等を体験し、食事のマナーや野菜の目利き等も食育に取り入れ、豊富な活動を展開している。食育だよりで食に関する季節の話題や健康な体づくりの情報を発信して興味・関心を高め、食全般への意欲を育てている。 | |

| No. | 特に良いと思う点 | |
|-----|--------------|--|
| 1 | タイトル | 職員は、子どもが続きを楽しみにできるような保育の実践を目指している |
| | 内容 | 「どのような環境を用意すれば遊びが発展するのか」を考える視点に立ち、子どもの発達に合わせて室内外の環境を工夫し保育を行っている。年齢ごとに様々な遊具を設定し、危険のないように見守りながら子どもの自由な発想を大事にしている。幼児クラスでは廃材を使い、いつでも自由に製作を楽しめるよう環境を整えている。乳児クラスでは少人数で落ち着いて過ごせる環境を整え、その時々の子どもの気持ちを丁寧に受け止めることで安心して過ごせるようにしている。子どもが「また明日も遊ぼう」と思える保育の継続を目標に、日々実践を積み重ねている。 |
| 2 | タイトル | 様々な遊びを通して保育士も学び、一人ひとりの心身の発達や育成の基盤を育んでいる |
| | 内容 | 遊びの中で一人ひとりの子どもの生きる力の根っこを育む活動のひとつとして、独自のカリキュラムを取り入れている。音楽・スポーツ・語学・芸術を専門講師の指導のもと、各年齢に合わせたプログラムで実施している。子どもたちは保育士や友達と一緒に楽しく活動に参加しながら、経験を重ね心身の発達の基盤を作っている。活動の様子は保護者とも共有し、取り組みの目的や活動内容の理解を図っている。保育士も講師と子どもの関わりを見て、実際に体験することで刺激を受け、新たなアプローチの方法を学び、自分自身の保育の引き出しを増やしている。 |
| 3 | タイトル | 個々に求める役割と責任を明確にし職員が力を発揮できる組織運営に取り組んでいる |
| | 内容 | 職員一人ひとりの思いを聞いてチームとして支え合う関係性の構築や、互いを認め合えるような組織運営を追求している。職層に応じた責任と役割を明確にして全体に周知し、組織としての基盤を固めている。保育の場面で個々の持つ力を発揮できるよう適材適所で配置し、安心して職務に就くことができるようにしている。全員で話し合う時間の確保が難しい中、園内研修に取り組み発表の形式で学びを共有したり、実践報告を行い職員間の交流を深めている。個々の職員が力を発揮し、より良い保育を共に考えられる組織づくりを志し、取り組みを継続している。 |
| No. | さらなる改善が望まれる点 | |
| 1 | タイトル | 職員自身が主体的に保育に取り組み、組織全体の保育力向上を目指していく |
| | 内容 | 子どもが自分で好きな遊びを選んで遊び込める環境をつくり、子ども主体の保育をさらに充実させていくためには、計画の立案、ねらいや保育・支援の意味、記録の取り方、子どもの行動の理由等を再考し、全職員が共通理解を深め、子どもに関わっていくことが有効である。園としても、これまでの振り返りを活かし、新たな視点で保育のねらいを持って活動を組み立てられるようにしていく意欲を持っている。子どもと共に取り組みを楽しみ、職員自身が成功体験を積み上げ、子どもを見る目を確かなものとして保育力の向上を目指していくことを課題としている。 |
| 2 | タイトル | 事故や事故に至らない事例に対し、多様な視点からアプローチし、より一層有効に活用していく |
| | 内容 | ヒヤリハット事例が起きた際は、確立された手順に則り、クラスで振り返りを行い、改善策を検討し、園全体の危機意識を高め、再発防止を図っている。事例をより活かしていくためには、検証に加え、保育環境が子どもの発達と見合っているか等、多角的な視点で分析するなど、リスク自体を広い視野、多様な視点から捉えてアプローチしていくことが有効である。安全に関する各計画と個々の職員の行動を連動させていくことを含め、今後も引き続き、安全な保育環境の維持・向上に取り組んでいくことを課題としている。 |
| 3 | タイトル | 子育て支援にかかわる地域のニーズを捉え、園の力を活かして子育て支援に取り組んでいく |
| | 内容 | 園での生活や行事に触れ、参加した地域親子が園児と触れ合う様々な子育て支援事業に取り組んでいる。保育士の様子を見て園の良さを体験してもらい、各専門職が保護者の悩みに向き合い適切に助言できるよう門戸を広げている。園としては、さらに近隣の関係施設と連携を図り、地域の現状や子育て世帯のニーズを探り、適切な支援を考えていく必要がある。それぞれの職員が子育て支援事業を自分事として捉え、個人または園としてできることを再考し、子育ての悩みや不安を安心に変えられるよう、引き続き取り組んでいくことを課題としている。 |